

- 各分科会の報告
- 次回開催地域代表あいさつ

### ○各分科会の報告

#### ■「道」分科会

コーディネーター／飯田市 牧野市長



今年度の「道」分科会におきましては、2027年度に開業を予定しておりますリニア中央新幹線がもたらす効果、これを三遠南信地域が広く享受していくため、交通ネットワークをどういう形で生かしたまちづくりにしていったらいいかということを中心に議論を行いました。

屋台骨である三遠南信自動車道、そして浜松三ヶ日・豊橋道路といった南北軸、それからこれまで整備されてきた新東名・東名高速道路、そしてこれからのリニア中央新幹線のほか JR 飯田線など既存の交通ネットワークを生かしたまちづくりにつきまして、様々な意見が皆様方から出されました。

広域幹線道路などのネットワークの形成を展望いたしまして、各地域で進められておりますまちづくりの取り組みやその整備効果をさらに高めるために取り組むべき課題などにつきまして、多くの意見を出していただきました。

こうしたものを整理いたしますと、これからこの三遠南信地域のポテンシャルを顕在化させていくには、やはりこの道路を中心とした広範な交通ネットワークの形成が必要不可欠というように考えられるところです。すなわち屋台骨である三遠南信自動車道の全通、そして浜松三ヶ日・豊橋道路の実現、そこに中央自動車道や新東名・東名高速道路、さらにリニア中央新幹線といった東西軸それぞれをしっかりと連携、結節させ、そして広範な交通ネットワークが三遠南信地域の中でしっかりと機能するように形をつくっていくことが重要と考えます。

このポテンシャルの顕在化ということを具体的に考えてみれば、圏域内外の人、モノ、情報等の好循環が形成されていき、産業資源、産業振興、地域資源を生かした観光振興、あるいは文化や生活など様々な分野で地域の活性化がもたらされるという状況ではないかと考えます。

ただ、意見の中でも出されましたが、三遠南信という言葉は我々の中では既に使い慣れた言葉になっているわけではありますが、まだまだ知名度が低いという御指摘も受けたところであります。すなわち、三遠南信をしっかりと地域ブランドにしていくための取り組みが必要ではないか、三遠南信といったらどこの地域を指すのか誰にもわかるように、この地域ブランド向上の取り組みを地域全体でしていくことが必要ではないかとの御指摘もいただきました。

いずれにいたしましても、リニア中央新幹

線の整備効果を三遠南信圏域全体に波及させていくためにも、この南北軸の屋台骨となります三遠南信自動車道をはじめとした広域幹線道路の整備促進が一層望まれるところです。三遠南信圏域の地方創生に向けまして、こうした交通ネットワークを生かした地域づくりを具体的に進めていこうということでまとめさせていただきました。そのためには、本日もお集まりの皆様方をはじめ、関係する皆様方のさらなる連携を進めていき、そして新たな人の流れをしっかりとつくっていくという試みが大事だと思われまます。

以上、「道」分科会からのまとめとさせていただきます。

#### ■「技」分科会

コーディネーター／公益財団法人南信州・飯田産業センター  
長島航空宇宙プロジェクトマネージャー



「技」分科会は、ネットワーク強化による産業振興というテーマで御議論をいただきました。

はじめに飯田市の高田産業経済部長から、「地域産業のプラットフォームを目指して」ということで市の拠点構想等について御紹介をいただきました。

そして、議論に入りましたが、まず設問といたしまして、地域内の連携によって現在取り組んでいる産業振興について3人の方から伺いました。

大鹿村の柳島村長からは、安全・安心な農産物をブランド化して提供できるような取り

組みを行っているということでした。

阿智村商工会の藤倉会長からは、三遠南信自動車道の開通によって圏域内の移動時間が短縮され、そして企業誘致あるいはコスト低減、それから雇用増進や販路拡大につながれるという大きな期待がかけられております。

サンガラトナの大島代表からは、地域の価値を問い直し、小さくても着実な地域経済を目指して活動しているということで、再生エネルギー、ソーラーシェアリングという活動に取り組んでいることなどが紹介されました。

2番目の設問といたしまして、産業振興を図る上で圏域内が連携して取り組むことでさらに効果が上げられることについて、4名の方から御意見をいただきました。

まず豊川商工会議所の小野会頭からは、研究機関を誘致、あるいは新設するなどして活用することが大事であり、また、産業振興にはインフラが不可欠であり、グローバル展開を見据えた空港の誘致なども考えてはどうかとの提言をいただいております。

奥三河自然と歴史にふれあう会の加藤代表からは、圏域内の連携によって互いの長所、短所を情報交換することが大事であり、特に特産品を生かした食文化の創造等に取り組んでいるという紹介がありました。

飯島町商工会の下平会長からは、中央自動車道が開通して伊那谷が大きく変わった。今度は三遠南信自動車道が開通すれば、人の流れが大きく変わり、各地域の産業のマッチングが大きく期待できるというお話がございました。

新城市商工会の本多会長からは、これからは空の時代がやってきて時間との勝負である。また、地域の結びつきにより生まれる新しい産業をトップセールスによって発展させてほしいとの御発言をいただいております。

最後に3番目の設問として、交通ネットワークの整備が産業振興を高めるために取り組むべき課題について、3人の方から御意見をい

いただきました。

豊川市の山脇市長からは、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備促進に加えて豊橋駅や浜松駅に停車する JR 東海道新幹線のひかり号の増便を JR 東海に要望していく活動にも期待をしていきたいとの御発言がありました。

田原市の山下市長からは、道路の整備に伴い新しい人の流れが生まれ、当地域を訪れた方々をどのようにもてなすかが大切であり、地域のブランドを確立して、市の魅力をアップしていきたいということを伺いました。

最後に、飯田商工会議所の柴田会頭から、リニア中央新幹線が人と情報、そして三遠南信自動車道がものを運ぶ動脈になる大交流時代の幕開けに向けて、地域の特徴、あるいは強みを生かした産業づくりとともに、地域の産業競争力を高める戦略的な企業誘致、それから地域連携によって産業振興をさらに深めていくことが重要だとの御意見をいただきました。

「技」分科会のまとめとして、本日の論議を踏まえて、次の三つに集約させていただきます。

まず、三遠南信地域に広がる多様な資源、これを生かした地域ブランドを確立するとともに、地域連携の強化によってさらに産業の発展が期待されるということです。

2番目が、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線などの交通ネットワークを生かした戦略的な企業誘致、産業振興を進めるとともに、広域連携による未来の成長産業への取り組みも必要であるということです。

それから3番目が、三遠南信地域の産業発展を維持するために、産学官金などの連携によって産業競争力を支える人材の確保、育成及び定着を図る取り組みが重要であるということです。

以上で、「技」分科会の報告とさせていただきます。

## ■「風土」分科会

コーディネーター／特定非営利活動法人しんきん南信州地域研究所  
林 所長



今回のテーマにつきましては、民俗芸能、それから自然、ものづくり文化など、三遠南信地域に広がる多種多様な資源を磨き上げることによる誘客の促進などによりまして、いかにして交流人口の拡大を図っていくかについてのものでございましたが、それぞれの発言者の方の本当に熱い思いが伝わり、非常に白熱した話し合いになったものと思います。

最初に報告といたしまして、浜松市の寺田文化振興担当部長から、三遠南信地域の民俗芸能等の文化財を生かして交流人口拡大につなげるという趣旨の「日本遺産登録に向けた取り組み」につきまして御報告をいただきました。その後、各地域で行っている取り組みや他地域と連携した取り組み、そして今後取り組むべき課題について、それぞれのお立場から御意見を伺っております。

まとめといたしまして、まず1点目でございますが、NHK の大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映が始まり、非常に好評ではないかと思えます。そういう中で経済効果も大いに期待されるところでありますが、これを一過性のものにしないうためには、交流人口の拡大、さらなる広域観光の促進を重要事項と捉えて地域が連携を図っていくことが必要ではないかということが1点目でございます。

2点目は、点から面へということです。点

在する資源、地域資源を結びつけるための取り組みを推進していく必要とともに、あわせて担い手、後継者など幅広い世代の人材交流に取り組む必要があると思います。さらには、お祭りあるいは伝統芸能といえども、これからは産業化の視点が必要ではないかということが2点目でございます。

3点目ですが、地域資源を生かすために日本遺産の登録に向けた取り組みがあるわけですが、地域資源についてストーリー性をもってPRしていくこと、行政と地域、あるいは民間が一体となって三遠南信地域全体のブランド力強化及び情報発信をしていくことが重要ではないかということです。

以上、「風土」分科会の報告とさせていただきます。

#### ■「山・住」合同分科会

コーディネーター／一般財団法人野外教育研究財団  
羽場理事長



今回の「山・住」合同分科会の与えられましたテーマが、「ひとをひきつける“みち”づくり」でした。まさに「未知の世界に人を引きつける道筋をつくる」と理解いたしましたして、討議に入っていた次第です。

会議の冒頭には、天龍村で地域おこし協力隊として体験された村澤雄大さんに活動報告をしていただきました。村澤さんと天龍村の皆様が手づくりで天龍村のコマーシャルを制作されたそうです。これが賞を受けたわけですが、見ていてほろっとするすばらしいもの

でした。

その報告の後、議論に入りました。地域のすぐれた活動、公（おおやけ）がおやりになったこと、それから民間が頑張られたこと、一緒にやったこと、様々な御報告がございました。そしてそれらが、いずれも地域に存在する資源を大事に育てて、そしてないものは、他所からお借りして資源化し、住みやすい地域をつくって、定住してもらうべく努力されておられるという報告がございました。

セッションの最後に、本日の成果を以下の三つにまとめさせていただきました。

1番目は、高齢化、そして人口減少社会にあって持続可能な地域をつくっていくためには、やはりその「地域の人たち自らが頑張って立ち上がってやっていくことが大事」だということの確認でした。地域のもつ資源を様々な工夫して、そして魅力ある資源化を図っていくこと、この住民の自主的自立的過程がないと、ただ素材のまま出してもなかなかうまくいかないということです。

2番目は、そうした資源を活用し、それを学び、楽しみ、働き、安心して暮らすことができる地域を目指すためには、ただ努力すればいいというだけではなく、「情報が重要」ではないかという課題が指摘されました。東栄町長から情報が入らないとのお話がありました。情報を発信する手段もなかなか無いけれども、三遠南信地域の全体が見えるような情報を得て、それらと連携しながら事業化していくこと、働く場所を確保していくことが重要で、そこから産業が生まれて根づかせ育てていくことができるのではないかというお話がありました。

3番目ですが、この地域に長く住んでいくためには、単に魅力があって、雇用があればいいというだけではなく、南海トラフ地震のほか各種災害が想定されるわけですが、それらに対し、「市町村や県境を越えた助け合いが大事」であるということが指摘されました。

具体的な例として、浜松市が所有するへりを医療や災害のときに融通し合うようなシステムを作ってくださいたり、小さな村や町ではお互いに物資や水等の融通をしあう協力関係が進められてきております。

なお、この連携の重要性という問題では、ユニークな御報告がございました。泰阜村長から、鳥獣駆除の問題を出され、せっかく猟師が鹿を追いつめても、ほんの少し県境を跨ぐと別の県の許可が必要となって捕獲できなくなってしまうと。それは笑い話のようでもあります。実は現場では大変なことです。それ以外にも医療や災害など様々なところで県境の壁ゆえの問題を考えていく余地があるのではないかという趣旨の御意見がございました。

最初の全体会で浜松市長から、これからの議論の中で県を考えてみようという御発言がございました。まだ時期は早いかと思いますが、いわゆる県を越えた許認可の問題等々もこれからの SENA の重要な課題になってくるのではないかと感じられる議論でした。

以上のように「山・住」分科会の結果を三つにまとめて報告させていただきます。

## ○次回開催地域代表あいさつ

浜松市 鈴木市長



皆様、長時間お疲れさまでございました。今回、大変有意義なサミットの開催ができましたのも、飯田市を初め、関係者の皆様の多大なる御努力、御尽力のおかげと厚く感謝申し上げます。

先ほどのトークセッションで、府県体制が129年間微動だにしてこなかったというお話をしました。これは、この体制がうまく機能してきたことの裏返しであったのではないかと思います。霞ヶ関を頂点としたこの中央集権的な統治構造は、明治以降、実にうまく機能してまいりました。人口が増えていく、あるいは経済が成長していく、社会全体が浮き上がっていくときには国全体を底上げしていくという点では、実によくできた仕組みであったと思います。

しかし、御存じのとおり人口が減っていく、それは取りも直さず地方を直撃するという、我々が今まで体験したことのない時代に突入いたします。地方創生という指針が出されて以来、ここに2、3年、こうした広域連携に対する見方、空気というものがガラッと変わってきたのではないかと思います。

この三遠南信地域連携という県を越えた連携も、これまではどちらかというと特に法的な意味づけもなかったものですから、情報交換の場であったり、交流の場であったりという時代が続いてきたと思いますが、私は

いよいよこの枠組みに正当性が出てきたのではないかと思います。あるいは、それを生かして、これからある意味リアリティをもってこの広域連携が進み始めた、実体をつくっていくという新たなステップに入ったのではないかと思います。

現在のビジョンがいよいよ終了しまして、新たなビジョンを策定する時期を迎えます。その第一歩となるのが、次回の遠州地域での三遠南信サミットとなります。9巡目を迎え、第25回となります。次に一步高みを目指す第一歩となるサミットにできればと思いますし、先ほどのサミット宣言の中にもありましたように平成30年度内に広域連合の結成を目指すという具体的目標もできましたので、これに向けて具体的な手続きをどうしていったらいいのか、さかのぼって、いろいろな準備手続きも含めた具体的な取り組みの検討段階に入ったのではないかと考えております。

そうしたことも含めて、いよいよ三遠南信地域の広域連携も新たな一步を踏み出す、新たな時代を切り開くサミットを浜松で開催できたらと考えております。ぜひまた皆様の御支援をよろしくお願い申し上げますとともに、ちょうど今年の秋の開催を予定しておりますが、大河ドラマもいよいよ佳境を迎えている頃だと思っておりますので、ぜひ大河ドラマ館やまちなか出世の館もお楽しみいただければと思います。

それでは、皆様を浜松でお待ちしております。